

豊明市行政評価制度 「事務事業」評価票

一般事務事業 経常事務事業 建設事務事業

平成20年度新

第5次行政改革大綱第1次アクションプランとの関連
 有
 無

1 事務事業の概要

1-1 事務事業の名称	消防体験フェア事業							
1-2 担当	部	消防本部	課 又は施設	消防総務課	係	庶務係	評価票作成者 庶務担当係長 柴田義則	
1-3 総合計画における施策の体系	節	生活環境 安全・安心で、うるおいのあるまちづくり			基本施策	消防・救急	コード	1 3 2
					単位施策(中)	消防体制の強化	コード	1 3 2 2
	項	生活安全・安心			単位施策(小)	消防団の活性化対策	コード	1 3 2 2 4
1-4 事務事業の目的の精査	対象と対象の数	消防団員		意図(対象を事務事業によってどのような状態にするのか)	市民の安心と安全のために活動している消防団の育成支援を行う。			
1-5 事務事業の内容	消防団活動を実施するためには、団員家族の協力が必要なため、消防活動を理解していただくことと日頃の消防団活動に感謝する目的で消防体験フェアを開催し、消防訓練・レスキュー体験・はしご車試乗・消防クイズ等の体験コーナー等を通じて、消防団活動の理解と組織の活性化を図るもの。又、消防団に関心がある一般の方にも参加していただき、今後の消防団入団の加入促進を図る。							

2 事務事業実施の状況

2-1 事務事業の実施における基本認識	事務事業実施にあたって心がけた改善の取組み		社会状況等の事務事業がおかれる環境把握		市民ニーズの認識		
	平成18年度						
	平成19年度						
	平成20年度	日頃の消防活動がわかるように消防訓練の見学や体験等により、家族に活動内容を理解していただけるよう検討した。	全国的に消防団員が減少しており、活性化対策が必要である。	地域に密着した消防団員の確保を図ることにより、災害時における地域の安心、安全感を与えている。			
	平成21年度						
	平成22年度						
	平成23年度						
	平成24年度						
	平成25年度						
	平成26年度						
平成27年度							

2-2 総合計画における単位施策成果指標	事務事業成果指標名		前期目標値(単位)	後期目標値(単位)	指標の説明	
	消防体験フェア参加者数(延べ人数)		362(人)	724(人)	団員の約1/4世帯(1世帯当たり約2人)及び消防団に関心のある一般参加者を含め、消防団の活性化対策として設定した。	

2-3 成果指標に係る活動実績とコストの推移(アウトプット分析)	活動実績 a(単位)	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
	直接事業費 b(千円)			83(人)							
	人件費 c(千円)			0							
	合計コスト d(b+c)(千円)			192							
	単位コスト d/a(千円)			1人当たり 3	当たり						

アウトプット実績(活動数値)の補足説明 → 人件費: 消防体験フェア 1日×4H×(事務局5人+消防係員10名)×3,200円(時間単価)端数切上げ

2 - 4 成果指標に 対応する実績と達 成度の推移		平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
		指標対応実 績(人)			83						
後期目標値 に対する達 成度(%)				11.5							

3 事務事業の自己評価結果

3 - 1 評価結果 (アウトカム自己分 析)	単年度 担当課評価	平成18年度	平成19年度	平成20年度	平成21年度	平成22年度	平成23年度	平成24年度	平成25年度	平成26年度	平成27年度
				A							

- 4段階評価結果
- A : 上位目的である施策に貢献しているので継続する
 - B : 事務事業の実施手法や環境(予算的・人的)に改善が必要
 - C : 縮小等、事務事業としての見直しが必要
 - D : 事務事業の廃止が相当
- 判断の基準
- 必要性(必要な事務事業であるか)
 - 公共性(公が実施する意味があるか)
 - 妥当性(ニーズに対して投入が適正か)
 - 効率性(結果に至る活動に無駄はないか)
 - 有効性(活動の結果が上位の目的に貢献しているか)
 - 市民満足度(事務事業が対象にしている市民を満足させているか)

3 - 2 評価の内容	今後の環境変化を踏まえた課題認識	次年度に向けて改善する取組み	事務事業の担当課としての単年度の取り組みの自己評価
平成18年度			
平成19年度			
平成20年度	日頃の消防団活動をより理解していただくためには、より多くの家族等の参加の促進を図る必要がある。	開催時期・内容等をさらに検討し参加者がより多くなるように努める。	日頃の消防団活動へのご理解、ご協力に感謝し、消防体験フェアを通じて、団員家族の方に、消防活動の理解が図れた。
平成21年度			
平成22年度			
平成23年度			
平成24年度			
平成25年度			
平成26年度			
平成27年度			

4 事務事業の総合評価結果

4 - 1 総合評価の 結果	結果	審査会による改善方向の指示
平成18年度		
平成19年度		
平成20年度	A	継続して事業を進めること。
平成21年度		
平成22年度		
平成23年度		
平成24年度		
平成25年度		
平成26年度		
平成27年度		